

各位

積水ハウス株式会社

ダイアログ・イン・ザ・ダーク・ジャパン

積水ハウス×ダイアログ・イン・ザ・ダーク「対話のある家」 2月21日から防災をテーマとした《大切な人を大事にしたい》開催 1月23日、チケット販売開始

積水ハウス株式会社(本社:大阪市北区、社長:阿部俊則、以下「積水ハウス」)は、情報発信拠点「SUMUFUMULAB(住ムフムラボ)」(グランフロント大阪・ナレッジキャピタル内)で定期開催しているダイアログ・イン・ザ・ダーク・ジャパン(本社:東京都渋谷区、代表:志村真介)との共創プログラム、ダイアログ・イン・ザ・ダーク(以下、DID)「対話のある家」で、防災をテーマとしたプログラム《大切な人を大事にしたい》を2月21日(土)から4月13日(月)まで開催します。実施に先立ち、1月23日(金)正午よりWEBでのチケット販売を開始します。

今回のDID「対話のある家」は、阪神・淡路大震災から20年を機に1月17日(土)から住ムフムラボ内で開催している防災企画「皆で考えよう暮らしの“防災力”」とも連動して開催します。阪神・淡路大震災は、まだ暗い時間に発生し、視覚に頼れない状況が不安を一層高めました。「大切な人を守るために、自分のことも大切にしたい。今私たちができることや、しなければならないこと」などを、暗闇の中で家族のように語り合うことで、日ごろの備えなどのアイデアを出し合い、防災についての気付きを得ていただけます。また、体験者その気付きをもとに、家庭で家族と防災について話し合うきっかけとなることを目指しています。

さらに、これらのアイデアや意見を踏まえて、4月下旬には生活者(住ムフムラボ会員=研究メンバー)、DIDのアテンド、当社研究員による共創研究ワークショップを暗闇の中で実施します。住ムフムラボでの防災企画展示を見学し、それぞれに気付きを得た上で、住まいの防災のあり方について暮らしに関わる様々な面から討議し、これからの当社の防災研究開発に活かしてまいります。

DID「対話のある家」は、2013年4月の開始から約6,900人が体験し、対話の大切さや人の温かさ、視覚以外の感覚の可能性、五感で感じる心地よさ、家族の絆など、新たな発見や気付きがあったという感動の声が寄せられています。

<脳科学者 茂木健一郎氏の声>



1月13日、DID「対話のある家」にて茂木氏(右)と(左から)DID代表の志村、理事の志村とアテンドスタッフ

人が感じる「心地よさ」というのは、視覚情報のみから得られるものではありません。例えば、家具や衣服もデザインなどの見た目だけでなく、触覚などの身体感覚から得る触り心地の良さなどが、大きな影響を与えています。

DID「対話のある家」では、真つ暗闇で視覚に頼らない体験を通じて、普段は気付かない感覚の使い方や自身の好みなど、様々な発見があります。私たちにはない能力を持つ暗闇のエキスパートであるアテンドとの交流も大変興味深いです。

今回、初めて防災というテーマで取り組む《大切な人を大事にしたい》でも、家族の絆を改めて確認したり、災害への備えなどの新たな発見が得られる機会となることを期待しています。

本件に関するお問合せ

積水ハウス株式会社 広報部

(大阪) TEL06-6440-3021 (東京) TEL03-5575-1740

■ダイアログ・イン・ザ・ダーク「対話のある家」◀大切な人を大事にしたい▶概要

- ・開催場所 : グランフロント大阪 北館ナレッジキャピタル4階
積水ハウス「SUMUFUMULAB(住ムフムラボ)」
- ・開催期間 : 2015年2月21日(土)～4月13日(月)
「大切な人を大事にしたい」
- ・チケット販売 : 2015年1月23日(金)正午から販売開始
- ・定休日 : 火曜日・水曜日
- ・所要時間 : 90分(防災企画展示「皆で考えよう暮らしの“防災力”」の見学(20分)を含む)
- ・参加人数 : 1グループ・6人まで(完全予約制)
- ・参加料金 : 大人3,500円/学生2,500円/小学生1,500円(税込)
- ・購入方法 : ダイアログ・イン・ザ・ダークのホームページからのWEB予約
<http://www.dialoginthedark.com/>
(住ムフムラボHPにもリンクを掲載しております)
- ・「対話のある家」お問い合わせ事務局: 0570-006-506 (IP電話からは0986-46-2672)
(火曜日～土曜日12～18時、月曜日・日曜日・祝日休業)

■ダイアログ・イン・ザ・ダークについて

ダイアログ・イン・ザ・ダークは、1988年にドイツで、哲学博士アンドレアス・ハイネッケの発案により生まれました。参加者は完全に光を遮断した空間の中へ、グループを組んで入り、暗闇のエキスパートであるアテンド(視覚障がい者)のサポートのもと、中を探検し、さまざまなシーンを体験する「ソーシャルエンターテインメント」です。

世界約35カ国・130都市で開催され700万人以上が体験。日本では、1999年から東京・外苑前の会場で開催しています。「住ムフムラボ」での「対話のある家」は、DIDとの「共創」による関西初の長期開催プログラムです。

■DIDとの共創プログラム「対話のある家」について

積水ハウスは「生涯住宅」思想のもと、長年にわたり「スマートユニバーサルデザイン」などの研究活動を続けてまいりました。

その一環として、「感じる力」、「関係性の回復」、「多様性を認める」を目的に、対話する場を提供し続けるDIDとの共創プログラム「対話のある家」は、光が完全に遮断された「純度100%の暗闇」の中にグループで入り、暗闇のエキスパートであるアテンド(視覚障がい者)のサポートのもと、住まいにおける様々な生活シーンを体験します。日常では得られない気づきやコミュニケーション向上の機会を提供しています。

さらに、ブランドビジョン「SLOW & SMART」を実現する住まいの快適性を深化させる研究や、「コミュニケーション・チームビルディング・リーダーシップ」の養成を目的とした研修等にも展開していく予定です。



■これまでの開催実績

- ・開催日数:2013年4月26日から開始、開催日数は263日間(2014年12月現在)
- ・参加者数:6,912人／性別:男性41%、女性58%
- ・年代:10代以下4%、20代31%、30代23%、40代20%、50代11%、60代以上3%

<アンケート結果> ~口コミやリピーターも増加~

- ・「また、参加したいですか?」との問いには、参加者の88%が「はい」と回答しています。来場のきっかけの1位は「知人や家族のすすめ」が30%を占め、口コミでの来場が最も多い一方、リピーターが増加(約15%)、4回目、5回目の体験の方もおられます。
- ・「あなたにとって「家」とは、なんですか?」の問いに、「安心・安全」(19%)、「落ち着く、ほっとする、休まる」「あたたかい、温もり」「安らぎ、癒し」「リラックス、くつろぐ」(共に11%)、「家族」(9%)といったキーワードが並びます。

<前回までの体験者の声>

「僕たちの夏やすみ」「まっくらな中で健康な家づくりにチャレンジ!」「誰かの幸せを願うクリスマス」など、季節ごとに、毎回異なるプログラムで実施しています。

- ・自分の五感に衰えがないことに安心し、驚きました。日常でもどんどん使います。(64歳・男性)
- ・2回目です。本当に色々考えます。感動からか泣けてもきます。何故だろう?(44歳・女性)
- ・手で触らずに音で感じたりするのは、学校で学習できないので良い経験になりました。(9歳・男子)
- ・普段、何気なくつないでいる子供の手だけど、実は自分が安心させてもらっていたことに気がきました。これからは目で見て気がついたものを、しっかり声で表情で伝えたいです。(37歳・女性)

■教育関係機関や企業など、「学びの場」としても活用されています。

「対話のある家」は、多様性を尊重し“誰もが暮らしやすい社会”の実現に向けたプログラムとなっています。暗闇における視覚障がい者(アテンド)の案内のもと、チーム内で互いに協力しあいながら、五感を使い、思いやりの大切さに気づくことができる、様々な“学びの場”として利用いただいています。

<教員・学生の体験者の声>

- ・最初は不安でいっぱいになりましたが、他の参加者の声を聞いたり、手を触ったりしているうちに、新しいものを発見するのが楽しくなりました。(20歳・女性・学生)
- ・暗い中では、対話も生まれ、想像力を働かせることができ、面白かったです。(21歳・女性・学生)
- ・視覚障がい児童と接することあります。子ども達がどのように感覚を使っているかが、わずかですが、わかりました。(56歳・男性・教員)
- ・暗いことが怖いのではなく、暗い中で他人が見えないことが怖いのだと思いました。見る事だけではなく、声をかけたり手を繋いだり、もっとすてきな方法がたくさんあるんですね。(42歳・女性・大学教員)
- ・学生と教員の役割ではなく対等な関係になれたのが良かったです。(56歳・男性・大学教員)

■暗闇のエキスパート <アテンドの声>

【ぐっち:谷口真大】台所から聴こえる夕飯の支度の音、お父さんのいびき、おばあちゃんの家のにおい。そんな何気ないどこにでもある日常が特別に変わる瞬間を、初めて出会った掛け替えのない家族と日々過ごしています。家族と一緒に過ごす時間の大切さは、誰にでもあるからこそ、そこにしかないもの。そんな温かさを、毎日思い出にしています。

【けいたん:辻岡恵子】ワクワクとドキドキで帰る家。暗闇の中で出会うにかやかな笑顔。そこには初めて出会う家族なのに、何だか懐かしい空間が広がるテーブルを囲むと自然と会話が生まれ、温かさで五感の豊かさに包まれます。今日は何んな家族と出会えるだろう。この家族の豊かさがそれぞれの生活を豊かにしてくれることを願いながら、今日もお迎えしたいと思います。

【たえちゃん:北村多恵】輪番停電中の友人の言葉。「電気が止まると家の中ってこんなに静かなんだ」。不便と感じられるその時間には、会話は密に、動きには他者への思いやりが溢れていました。でも、これ、本当はいつもの生活の中にあるんです。暗闇はそんな「本来一番近くにある愛しいもの」をやさしく丁寧に感じさせてくれる場。対話のある家は、「目に見えない尊い宝物」を共有できる素敵なお家です。